



花輪

かりん

2013年3月発行 第24号
 表千家旭川地区青年部
 〒070-8003
 旭川市神楽3条2丁目3-6
 白井 恵理子方
 表千家同門会旭川支部事務所内

旭川支部主催「彫刻家佐藤忠良展・記念茶会」にて、お点前とお運びのお手伝いをしました。

ご挨拶

表千家旭川地区青年部

部長 梶田直也



平成二十四年度は「新たな取り組み」の年でした。長年事業の中心であったチャリティー茶会が主催者の都合で取りやめとなり、新たな茶会を模索することになりました。しかし場所や費用、参加人数など課題が多く、諦めかけたとき、支部から「赤い実の洋燈茶会」の提案があったのです。支部とOB会の応援をいただきながら開催にこぎ着け、それが大きな励みとなって「花と緑の野点席」や「ライナー感謝祭」へとつながりました。

また今年度は多くの方からの機会をいただいた年でもありました。旭川支部主催で青年部OBが席を持たれた「春の茶会」、そして「彫刻家佐藤忠良展・記念茶会」も青年部がお手伝いをさせていただきました。前年に引き続き、緑が丘小学校「茶の湯体験学習」もお手伝いしました。来年度からは支部の協力を得て、徐々に青年部が田中昌子先生より引き継ぐ計画です。まずは「はじまりの挨拶で生徒さんにお茶を伝える」ことからスタートいたします。

青年部の皆さんには心から感謝しています。前述の「花と緑の野点席」は、行事の参加者不足に苦勞する中、「七名でも開催しましょう」との声から実現したものです。人に頼らず自分たちで実行する姿に勇気をいただきました。また、旭川支部主催の「市民講座」にて青年部

PRを行った際も、手づくりの揭示物を掲げて入会を呼びかける姿に感動しました。

これからの青年部に必要と感じていることがあります。第三回青年部長研修会にて本部よりご指導がありました「次期役員へのひきつぎ」資料の作成です。皆さんは仕事や家庭がある中で活動をしています。こうした資料の活用により、青年部の皆さんに負担をかけずに運営ができますことを望んでいます。



「赤い実の洋燈茶会」支部役員と青年部OBとの一枚。

お茶とともに
この一年

井上靖記念館での茶会、ライナー感謝祭への協力など
新しい行事が目立った平成二十四年度。
みんなで力を合わせて取り組んだ一年を写真で振り返ります。



5月31日
■茶の湯体験学習お手伝い
緑が丘小学校
昨年からの行事で、お手伝いも慣れてきました。生徒さんと共にお茶を楽しむことができました。



5月13日
■旭川支部春の茶会お手伝い
花月会館
元部長が席を持たれ、青年部がお手伝いをしました。活動の場を模索し苦悩する中で、光を見出すきっかけに。



7月24日
■東ライオンズクラブ呈茶
北海道青年の家
海外からの学生さんが茶筌を持ち、ひとりひとり抹茶を点てて日本の伝統文化を体験。



6月24日
■ミニ学習会
「道具のしまい方」
扇松園

「赤い実の洋燈茶会」の反省会を行ったあと、お道具屋さんの協力で、いろいろな茶道具の「しまい方」を学びました。



7月

6月

5月5日

■赤い実の洋燈茶会
井上靖記念館

作家井上靖氏の書齋・応接間オープン事業をきっかけに、支部とOB会の協力で茶会を開催。恒例茶会への定着を願って。

5月

4月



7月14日
■花と緑の野点席
上野ファーム

朝方の雨で屋内開催に。今回は「花と緑があふれるガーデンで野点を！」が参加部員7名の共通の夢に。



4月13日

■定例総会
旭川市市民交流センター
恒例茶会の取りやめ、部員の減少など課題が多い中、新たな取り組みを見据えつつ新年度がスタート。

8月5日
■「彫刻家佐藤忠良展」
記念茶会のお手伝い
北海道立旭川美術館

支部主催の茶会に参加。ロビーから眺められる緑あふれる風景が印象的でした。



5月27日

■第3回青年部長研修会
表千家北山会館

私たちは小学校での「茶道体験学習」について発表。全国青年部の活動を知ることができ、励みになりました。



10月14日

■学習会「和菓子づくり」
C&Cあさひかわ

菓子職人さんの指導のもと、練り切りづくりに挑戦。皆さんが思いを込めたお菓子は、それぞれの親先生の元へも。



9月30日

■市民講座にて青年部PR
花月会館

部員減少に歯止めをかけようと、手づくりポスターでPR活動をしました。

12月

11月

10月



8月26日

■札幌青年部
「開拓の村茶会」
開拓の村(野幌)

札幌青年部さんと毎年行う意見交流会。来年度は合同企画で学習会を計画することになりました。



1月26日

■新年会 たま川

恒例となった福引き○△□は、今年も賑やかな雰囲気をつくってくれました。



9月

8月

9月6日

■茶の湯体験学習お手伝い
緑が丘小学校

座り方、お茶碗の持ち方、置き方…たくさん体験してもらえました。来年度は紙芝居風テキストを使う計画が。



9月29日

■ライナー感謝祭野点席
キトウシ森林公園

前日までの雨が嘘のような晴天。1万人が来場したイベントの野点席では、市民におなじみの「まみむ」の和菓子が話題に。



楽しかった青年部活動

子育てしながら参加する！

柏倉亜里沙

平成二十四年一月、長男を出産しました。その後数カ月は青年部活動に参加できずにいましたが、部長から声をかけていただき、子どもと一緒に「上野ファーム」のお茶会に参加しました。子どもをおんぶしながら水屋を担当し、お茶を点てたりお菓子を用意したりと大変でしたが、新鮮な気持ちで楽しめました。十月には「C&Cあさひかわ」での和菓子づくりに参加しました。子どもはおんぶしたり、部員の方や教室の方に遊んでいた。完成したお菓子は皆さんでお抹茶とともに試食しました。子どもはお菓子を食べたそうにしましたが、まだ食べられないので私がおしくいただきました(笑)。

お稽古は五月から再開しています。最初は子どもが大泣きしてしまい、私も泣きそうになりました。そんなとき「私もあなたと同じようにしてきましたよ。だからあなたの気持ちわかるわよ」と先生に言っていたとき、今日までお茶を続けられています。

私たち青年部は、子どもを産み育てる世代でもあります。子育て中の方も多く参加されています。私たちと一緒に、青年部活動に参加してみませんか？



親子でお運び

長谷川純子

私は今年から青年部に入会させていただきました。小学校低学年の子を持つ身であり、部員の皆様にご迷惑をおかけするのではないかと不安に思っていたとき、梶田部長から「お子さんと一緒に参加されてはいかがですか？」とお誘いをいただいたのです。思いきって親子で青年部のお茶会のお運びをさせていただきます。ですが、子はそれがとても楽しかった様子で、「次のお茶会はいつ？」と聞いてくるほどでした。部員の皆様が寛大な心で受け入れてくださり、親子で参加させていただけただけで感謝の気持ちでいっぱいです。



会員22人に聞きました!

一問 十七答

あなたがお茶を始めた きっかけは?

母に誘われて行、お茶会の雰囲気
魅力を感じてお茶を始めました。
林 尚美

小学二年生の参観日。いつもは懇
談会にお席する母が、その日に限、マナー
お宅に立ち寄り、通された所はお茶室。
来週から通うのよ、この一言です。
長谷川 純子

和菓子が大好きだったので、
子供の頃祖母の作りいこに
連れて行ってもらいました。
白井 中ゆえ

知人に誘われた夜咄の茶事。
幻想的な時の流れに魅了され
お茶を始めました。
梶田 直也

茶懐石料理が最高に美味しい
と聞き、お茶を始めました。
角張 仁美

カレシヤーに負けない根性
派手ではない華やかで
中澤 里美

自分磨きの為、
人生観が大きく変わりました。
岡林 都子

母の勧めと、お抹茶の美味しさに
感動し、自分も習いたいと思い、
茶道を始めました。
村田 歩美

和菓子が美味しいうで、
そして着物を着たくて
お茶を始めました。
村中 忍

幼い頃から着物を着てお点前を
する茶道に夢がかけられていました。
社会人になっても夢がかけられていました。
榎本 アカネ

何かを始めたくて
友人が習っていたので
始めました。
志々見 房江

友人の大半が算盤を習って
いた頃、違うことがしたく、
母が音習っていたので始めました。
相田 愛

元々、日本史が好きで、お茶にも
興味がありました。
学業も終了したことで、
思い切って始めました。
相倉 至里沙

季節的なものが好きだったので
花嫁修業に始めました。
田子 昭子

新入学生の頃、ある先輩からの
代表のあいさつに感銘を受け
茶道部に入部したこと。
白取 美穂子

母の「そろそろ始めたら？」の
一言で、翌週には先生の所で
お世話になる事が決定しました。
松崎 千春



あなたもお仲間になりませんか?

興味のある方は
お気軽に

新入会員 募集中

- 入会資格** 表千家不審菴入門者で、十八歳から四十五歳までの青年男女ならどなたでも入会できます。
- 入会方法** 先生を通じて同門会旭川支部にご連絡ください。青年部より申込用紙と振込用紙をお送りいたします。
- 年会費** 年間二千元(税込)

平成二十五年度の活動予定

- 4月/定例総会
- 6月/赤い実の洋燈茶会・茶の湯体験学習お手伝い
- 9月/茶の湯体験学習お手伝い
- 秋/学習会「陶芸家に習う茶碗づくり」
- 12月/クリスマス茶会
- 1月/新年会

編集後記

本年度は青年部の活動が例年より多い感じでしたが、先輩方をはじめ皆様のご協力を得ながら無事に行うことができました。ありがとうございました。
どの行事も部員一同一生懸命取り組み、充実したものになったことと思います。今後皆様にも楽しんでいただけるよう、より良い活動を行っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

林 尚美

新しい行事がたくさんあった今年度は、記載事項も多彩で充実した二年だと改めて感じました。
会報誌「花輪」もリニューアルしての発行です。気持ちも新たに皆さんと活動に取り組めればと思います。また、多くの諸先輩の方からのご協力に、この場をお借りして感謝申し上げます。

中澤 里美